学校評価シート

東海市立名和小学校

住　　所　東海市名和町山東１０番地
電話番号　０５２－６０３－１１５１　　児童　865名
校 長 名　花井　浩美　　３１学級　（内　特支５）

○ 教育目標
- 知・徳・体の調和と統一のとれた，心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成

○ 特色ある活動
- 地域の祭りの象徴的な出し物として親しまれている「猩猩」について学び，地元の文化を知ったうえで名和小学校独自の「猩猩」文化を「名和っ子猩猩」として創造して，全国に発信し，未来へと引き継いでいく。

○ 地域の特色
- 古くからの住宅と新興住宅が混合する地域で，コミュニティ活動は充実している。

資料等

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	課題と対応策	学校支援協議会評価【実施日】令和6年3月12日	来年度の改善策（誰が何をどうする）
知 確かな学力を育む	基礎的な学力の定着と主体的に学ぶ態度の育成を図り，「わかる・できる・楽しい授業」を実践する。	（児童０４）先生は熱心に教えてくれる。 （児童１６）授業は楽しい。 （児童１７）授業の内容が分かる。 （児童１８）授業中，自分の考えや意見を発表している。 （児童１９）授業中，友達や先生の話をしっかり聞いている。 （児童２０）宿題は，きちんとやっている。 （保護者０２）学校は，子どもたちの学力向上に努めている。 （保護者１１）先生(担任・教科担任)は，分かりやすい授業をしている。 （教師１６）分かる授業を実践している。 （教師１７）楽しい授業を実践している。 （教師１９）子どもは，授業の内容をを理解している。 （教師２２）基礎学力の定着を目指した指導を行っている。	（評価Ｂ）「先生は熱心に教えてくれる」「授業の内容が分かる」「授業中，自分の考えや意見を発表している」「授業中，友達や先生の話をしっかり聞いている」と答えた児童が，昨年度に比べて約１～３％増加した。また，「宿題はきちんとやっている」という割合は，約５％増加した。 「先生はわかりやすい授業をしている」と答えた保護者は昨年度に比べて約３％減少した。 「基礎学力の定着を目指した指導を行っている」と答えた教師は約１０％減少した。また，「子どもは授業の内容を理解している」と答えた教師は約１２％減少した。	○教師個々が自信をもって，児童の指導に当たることが，児童の学習意欲向上や学力向上につながる。教師が「わかる・できる・楽しい授業」を実践し，児童の基礎学力向上に向けて，学校全体で一丸となって取り組む。 ○授業力向上を目指す効果的な校内研修を計画し，実行する。特に経験年数の少ない教師に対しての指導助言を徹底していく。 ○校内だけでなく，校外のよりよい実践を見たり聞いたりする研修にも積極的に参加させたい。	○ＰＤＣＡはサイクル（リターン）がないと意味を持たない。計画をする段階で，何をいつからいつまでの期間で，誰が実践をして誰が確認するのか明確にする。必ず振り返りをするから次の対策に進めるのではないか。やりっぱなしになっていないか。 ○具体策として，保護者への学校の情報開示を提案する。具体的には保護者へ学校の情報提供を学年毎やクラス毎に行い，努力を促すこと。学年目標を知らせてもらえば，１年間で先生方がどう導いてくださるかが分かる。難しい単元やつまづきやすい単元，漢字の習得率が落ちている等の授業進度を知らせてもらえば，気にしてみる保護者は増えて，家庭の復習が促されるのではないか。 ○教師「児童は授業の内容を理解している」が少ない点が気になる。教師間で授業の進み方についてお互いに情報共有するなどして，より児童が楽しく興味をひく授業になればよいと思う。 ○教師アンケートで「あてはまらない」が増えているのが気になる。教師自らが資質向上に努めていかなければ，児童の学力向上は望めない。クラス担任の意識の差で児童の学力は大きく差がつくのではないか。今年度５・６年生では一部の教科を別クラスの担任が行っていた。保護者としては，どこのクラスも同じ水準の授業が受けられるという安心感がある。 ○気になる子（騒いだりする子）は，見て見ぬふりをしないで，ちゃんと対策をとるべきだと考える。	○全職員が，普段の授業から「この時間は何をするのか」「この単元で何を学んだのか」「次に何を学ぶのか」を児童に意識付けさせる。ノートやプリントなどを通して，学びの軌跡を残し，振り返りに活かす。 ○児童が現在何を学んでいるのか，教頭が中心となり，ホームページなどで保護者に情報提供をできるように整備していく。 ○教務主任がＮＲＴ・ＣＲＴ・全国学力学習状況調査を分析し，各担任が理解度の低い分野や教科を重点指導する。また，学年で歩調を合わせ，各担任が反復練習を行うことで，学年全体で児童の基礎学力向上に努める。 ○学習規律について指導部員が再検討する。また，学習規律について，学年主任が学年の他の担任に助言し，担任が指導する。 ○児童が落ち着いて授業を受けられるよう，担任だけでなく，学年や学校全体で児童を見取る。
	各種研修会への参加や校内研修等を通して，教師個々の授業力の向上に努める。	（教師０７）発達障害について理解を深める努力をしている。 （教師２３）各種研修会に参加するなど，力量向上に努めている。 （教師２５）家庭での学習が定着できるように手だてを講じている。	（評価Ｂ）「各種研修会に参加するなど，力量向上に努めている」と答えた教師は７割いるが，昨年より約４％減少した。また，発達障害の理解に努める教師は約９割いる反面，「家庭での学習が定着できるような手だてを講じている」と答えた教師は年々減少している。			
徳 豊かな人間性を養う	特別な教科道徳の研究を全校体制で推進し，思いやりの心を育てる。 いじめや不登校問題に対し，予防対策・早期発見・適切な対応に全力を尽くす。	（児童１２）他の人に悪口を言ったりいやなことをしたりしない。 （児童１３）他の人から悪口を言われたりいやなことをされたりしない。 （児童１５）友達と仲よくしている。 （保護者１２）学校は，いじめのない学級・学年づくりに取り組んでいる。 （教師０８）いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。 （教師２０）道徳の時間や体験活動を通して，心を育てる指導に努めている。 （地域０７）子どもたちがよくないことをしているのを見かけたら注意する。 （教育活動）道徳等の授業実践・反省，授業研究	（評価Ｂ）「他の人に悪口を言ったりいやなことをした」「悪口を言われたりいやなことをされたりした」経験のある児童が約３割，昨年度より５～９％増加している。「学校は，いじめのない学級・学年づくりに取り組んでいる」と答えた保護者の割合は，６割程度。教師の９割はいじめのない学級・学年づくりに取り組んでいる。地域住民の６割が子どもたちがよくないことをしているのを見かけたら注意すると答えている。	○いじめ問題は，本校においても重要な課題として取り組んでいる。学校教育活動全体で，いじめをしない・させない学校づくりを進める。記名・無記名アンケートから得られた情報を学校全体で共有する。教師が児童との関わりを多くし，複数の教師が対応にあたることで，いじめの未然防止，早期発見，早期対応に取り組む。 ○あいさつを教師から率先して行うことで，自分からあいさつができる子に育てたい。また，委員会によるあいさつ運動も継続して行う。 ○運動会，名和っ子フェスタ，クラブ発表，子ども芸能発表会などで「名和っ子猩猩」を披露する機会を設けた。名和小学校の特色のある活動の一つである。低学年の段階から意図的に「名和っ子猩猩」に触れさせ，名和小学校の伝統を継承していく。 ○奉仕的活動として，もくもく掃除を目標にした清掃活動が定着させたい。	○児童の集計結果を見る限り，友達との関係や家族との関係も昨年度より良好に見えた。しかし，相談をせず一人で抱えている子もいる。子どもからのサインを見逃すことが一番怖いことなので，教師は注意して見てほしい。 ○保護者と教師とのいじめの意識のずれが大きいと感じた。教師はいじめと思っていなくても，児童や保護者はいじめだと思っている。教師はいじめに関する感度を高めてもらう必要があると感じる。また，他の児童に不快な思いをさせている児童も少なからずいる。その保護者に学校での状況がどの程度伝わっているのかが不明。 ○クラス状況の情報提供があれば，家庭で話すきっかけができ，家庭で聞き取りをすることで未然防止や加害者であれば保護者からの指導ができるのではないか。 ○ペア活動で，高学年の児童がよいお手本を示してくれることが，全体的に優しい子に育っていくことにつながっている。 ○学校，地域共に，些細な事から「あれっ」と感じたときにすぐに何らかの声かけができるようになりたい。 ○あいさつは元気にできる子とできない子がいるが，生活に欠かせない，大切なコミュニケーションの始まりだと思うので，地域住民もいろいろな場面で声かけをしたい。	○全職員がいじめは絶対に許されないという意識をさらに高める。担任は児童一人一人を十分理解し，よりよい人間関係を築く指導に心がける。そのために，指導部員が中心となり，教育相談活動の改善点を話し合い，見直しを図る。 ○小さなサインを見落とさないよう，全職員で児童を見守る。いじめが起こった場合，校内緊急対応チームによるいじめ対策委員会を開き，学校全体で解決に取り組む。解決に向かった場合も，多数の目で最低３か月は見守り，完全終結に努める。 ○不登校に対して，全職員が様子や変化に注視し，その前兆を捉える。そして，担任が学年主任や養護教諭に早期に相談し，内容によってはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等につなげる。 ○全職員が地域からの声に耳を傾け，児童の学校生活向上に努める。また，地域への情報発信はホームページや学校だよりの回覧を通して，今後も継続していく。
	児童会活動やペア活動，奉仕的活動の充実を図り，心豊かな児童を育てる。	（児童０１）毎日の学校生活は，楽しい。 （児童１１）友達や先生にあいさつしている。 （児童２６）ペア活動は楽しい。 （教師２１）子どものよいところを認め，褒めている。 （教育活動　児童会活動）児童会活動計画・実践・反省 （奉仕的活動　児童会活動）奉仕的活動計画・実践・反省	（評価Ｂ）あいさつを行うと答える児童の割合は，73%で，年々減少している。児童会活動は，コロナ禍で数は減っているが，児童の意見を尊重しながら，募金活動，保健委員による健康面への啓発活動などを行った。ペア活動を月１回実施したことから，９割近くの児童がペア活動を楽しいと感じている。			
	児童の仲間意識を高め，活気ある学校づくりを推進するために「名和っ子猩猩」の活動充実を図る。	（児童０２）名和小学校が好きである。 （児童２３）「名和っ子猩猩」の活動に積極的に参加している。 （保護者１８）学校は，「名和っ子猩猩」の活動に，積極的に取り組んでいる。 （教師０３）「名和っ子猩猩」の活動を意識した指導をしている。 （地域０９）名和小学校の「名和っ子猩猩」の活動について知っている。	（評価Ｂ）にっぽんど真ん中祭りなどでの「名和っ子猩猩」の児童の参加割合は５割となり，２割程度増加した。保護者の85%は「名和っ子猩猩」を意識した学校づくりに取り組んでいると評価している。地域住民への認知度も２割ほど増えている。			
体 健康な心と身体を育む	基本的生活習慣（あいさつ）の定着と規範意識（自己有用感）の確立に努めるとともに，命を尊び，健康で安全な生活を送るための教育を推進する。	（児童０３）わたしは，学校のきまりを守って学校生活をしている。 （児童０８）忘れ物をしないように気を付けている。 （児童０９）時間を守って生活している。 （児童１０）よい姿勢で学習している。 （児童２１）朝ごはんは，きちんと食べている。 （児童２２）早寝早起きをしている。 （保護者１６）あなたの子どもは，社会のルールを守っている。 （教師０９）「早寝，早起き，朝ごはん」の定着に向けた指導をしている。 （教師１２）よい姿勢で授業を受ける指導をしている。 （教師１４）始業，終業の時刻を守って授業をしている。 （教師２６）子どもたちがルールを守って学校生活を送るよう指導をしている。 （地域０６）地域で見る名和小学校の子どもたちは，社会のルールを守っている。	（評価Ｂ）「早寝早起きをしている」児童が，昨年度より約５％減少している。特に生活習慣である「早寝早起き」「時間を守る」「忘れ物をしない」が昨年度より減少していることは，注意していかなければならない。逆に，「児童が社会のルールを守っている」と答えた保護者や地域住民は，昨年度に比べて約１割以上増えている。	○早寝・早起きについては，保護者の協力も得る必要がある。教師が校内での始業・終業のメリハリをつける，忘れ物が常態化しないような指導も継続して行う。 ○今後も継続して，社会のルールを守る指導をする。 ○社会の状況が刻々と変化していく中で，感染予防に対する指導に対して引き続き力を入れ，教師一人一人が最善の努力をする。 ○小学校期に運動する楽しさを身に付けることが生涯スポーツの基盤となり，健康づくりへとつながる。感染予防をしながら放課遊びを推奨したり，体育科での運動量を多くしたりして，体力向上に努める。	○生活リズムに関することは，昨年より大半が生活習慣の指導になり，これは家庭ですることではないか，上記の業務内容を保護者に開示することによって，先生方の仕事がこれだけあることを認識してもらい，保護者の理解と協力を得たい。 ○高学年になると，子どもたちも個室を与えられ，いつ寝たか保護者も分からない。忘れ物をした，授業中にあくびをしていた，居眠りをしていた，体育の授業で途中から参加できなかった等，個別で知らせて頂けると，家庭でも健康に関心をもち，親子で話し合える機会を設けるのではないか。 ○感染予防をしながら，できる限り放課などを利用して体を動かす時間を増やしてほしい。長縄跳びやチームで戦うスポーツも助け合いや協力し合う力が養われるので，挑戦してほしい。（スポーツクラブ東海を活用するとよい） ○公園で遊んでいる子どもを見ると元気に遊んでいる。公共の物品を大切に扱う指導もお願いしたい。 ○部活動が縮小している中で，できる限り体を動かすよう，指導していただいていることが分かる。	○教師全員が，感染症対策を心がけながら，放課遊びを推奨したり，体育科での運動時間量を多くしたりして，体力向上に努める。また，指導部員が中心となって，運動機会を高める方法を検討する。 ○担任が朝，児童の様子を見て，必要に応じて養護教諭や管理職と情報交換を行い，日々の健康管理に努める。また，養護教諭が作成する「保健だより」で，家庭に呼びかけ，家庭と協力して「早寝，早起き，朝ごはん」の基本的生活習慣を見直す。
	児童が元気よく身体を動かし，体力を高めることのできる環境づくりに努める。	（教育活動：体力）体育の授業，ペア遊び，なわとび集会，体力テスト等 （教育活動：健康）感染予防，保健室来校者	（評価Ｂ）感染対策が緩和され，運動会やなわとび集会に合わせて，体力強化を図る取り組みを多くとるようにしている。感染予防や児童の健康管理を徹底するため，週に１回フッ化物洗口を実施している。			
地域連携 信頼される学校をつくる	ホームページや学校だよりの充実を図り，保護者・地域に情報を発信する。	（保護者０３）学校は，保護者が子どもの活動を参観する機会をよく設けている。 （保護者０７）学校から出される「猩猩だより」「学年だより」やホームページなどには，保護者の知りたい情報が盛り込まれている。 （保護者０８）先生は，家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。 （教師０４）たよりなどを通して積極的に学校の様子を知らせている。 （地域０４）学校からのたよりやホームページなどにより，学校の様子が分かる。	（評価Ｂ）ホームページ，学校だよりの充実に努め，回覧板も活用して，情報を発信し，「地域で学校の様子が分かる」と回答する方は２割増えた。また，学校から出される「猩猩だより」「学年だより」やホームページなどには，保護者の知りたい情報が盛り込まれていると答えた保護者は6%増加した。逆に，家庭へきめ細やかな連絡をしていると答えた保護者は，５％減少した。	○学校の様子はブログやホームページで毎日知らせている。地域の方にもやや浸透してきた。今後も，可能な限り学校だよりを回覧板で地域に回覧させて徐々に伝えていく。 ○地域行事が戻りつつある。地域行事の参加は，４役や一部教師に限られている。教師の働き方改革の問題もある。若い教師を中心に，今後も無理のない範囲で地域活動への参加を促す。	○毎日のブログ更新は，学校の様子が分かり，楽しみに見ている。 ○学校側から地域への発信はできていると思う。保護者が積極的に地域行事に参加することが必要と思う。学校行事へのボランティア募集など発信いただきたい。 ○地域として学校教育活動にできる限り協力したい。 ○アンケート項目で，教師の「無効」が気になった。 ○地域の子供会が解散していることが多くなっている。保護者と地域とのつながりが少なくなっている。 ○学区内で行われている行事（町内会や子供会等）のお知らせを校内に掲示したりするのはどうか。	○職員が，ブログや学校だよりを通して，学校の様子を家庭や地域への発信を継続する。また，教頭が，コミュニティの会で依頼し，学校だよりを回覧板で回すようになり，認知度も高まってきたので，続けていく。 ○無理のない範囲で，学校行事への地域住民参加や地域行事への児童・職員の参加を促し，教頭が中心となり，学校と地域の相互交流が図れるようにする。
	学校支援協議会との連携を強化し，地域・保護者とのつながりを一層深める。	（児童２５）名和コミ・子ども会・児童館などの地域の行事に参加している。 （保護者２０）あなたは，子どもを地域の行事に積極的に参加させている。 （教師０５）保護者の願いや声を聞いて指導に生かしている。 （教師２９）地域の行事等に参加したり，顔を出したりしている。 （地域０３）名和小学校は，家庭や地域の願いや声を聞いてくれている。 （地域０８）名和小学校は，地域の活動や行事によく協力している。 （地域１０）学校行事で地域が協力できることがもっとある。	（評価Ｂ）教師の地域の行事への参加率は，34%である。児童は40%，保護者も39%となっている。地域の方で「名和小学校は，地域の活動や行事によく協力している」と答えたのは72%，「学校行事で地域が協力できることがもっとある」と答えている割合は59%である。			